

長野県図書館協会・長野県図書館大会のあり方検討チーム

アンケート結果

「図書館大会のあり方について」

実施期間：令和7(2025)年1月8日～2月14日

回答数：365（回答対象数：753）

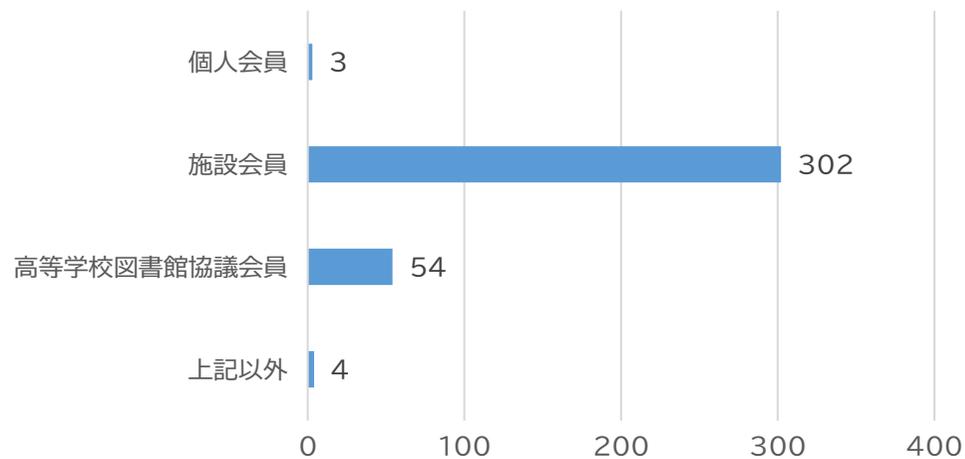
回答率：48.5%

長野県図書館協会

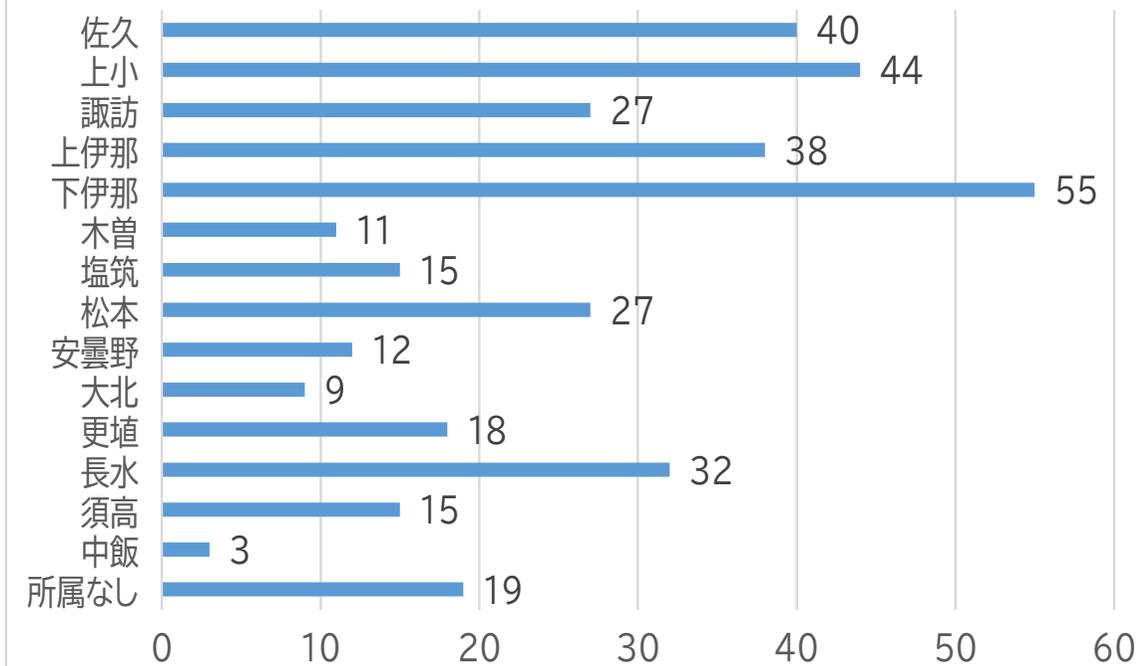
(アンケート回答内容の要約に生成AI(Microsoft Copilot)を使用しています。) 1

基礎データ

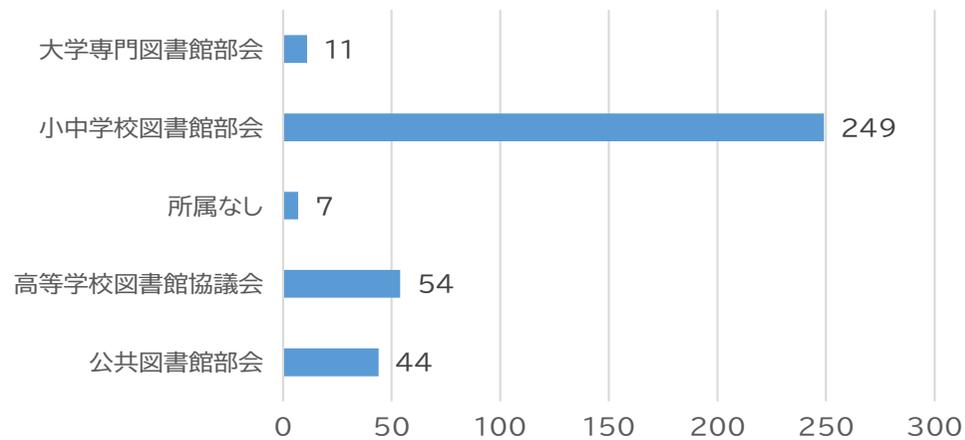
会員等の種別



支部



部会等



	回答数	対象者数	回答率
公共図書館部会	44	71	62.0%
小中学校図書館部会	249	534	46.6%
大学専門図書館部会	11	21	52.4%
高等学校図書館協議会	54	88	61.4%
その他	7	39	17.9%
計	365	753	48.5%

基礎データ（アンケート項目一覧）

アンケート項目一覧

大会テーマについて ①テーマの決め方

大会テーマについて ②テーマの設定（継続 or 都度設定）

基調講演について ①講演者の決め方

基調講演について ②講演者の種別

基調講演の開催手法（参集、オンライン）について

（「オンライン」を選んだ場合）どの方式がよいか（個別接続、サテライト など）

分科会のあり方

分科会の開催手法（参集、オンライン）について

（「オンライン」を選んだ場合）どの方式がよいか（個別接続、サテライト など）

企画運営委員会と実行委員会との役割分担について意見があれば

持続可能な大会運営のあり方について ① 実行委員会の担当地区割

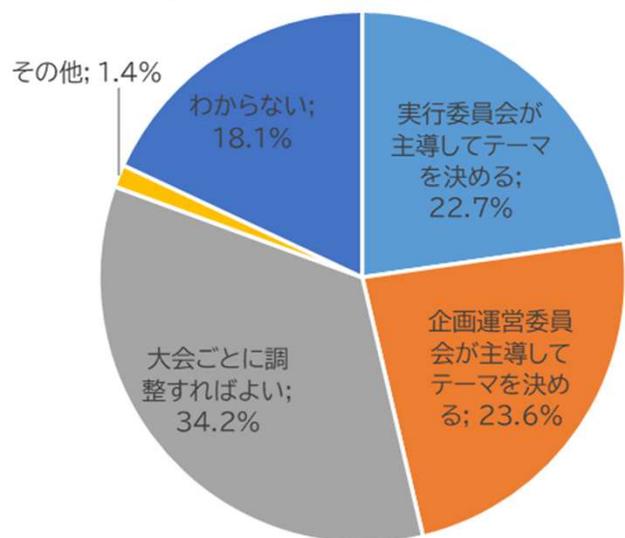
持続可能な大会運営のあり方について ② 大会の開催曜日

持続可能な大会運営のあり方について ③ 大学・高校の大会（分科会）の一括開催

その他

大会テーマの決め方について

大会テーマの決め方について



項目	件数
実行委員会が主導してテーマを決める	83
企画運営委員会が主導してテーマを決める	86
大会ごとに調整すればよい	125
その他	5
わからない	66
総計	365

◆ 企画運営委員会の役割と改善

- 企画運営委員会には開催地からも参加しているので、そこで協議してはどうか。
- 企画運営委員会が主導してテーマを決めるのであれば、委員会の持ちかたの改革が必要。
- 現在の企画運営委員会の構成員から考えると、開催地や開催日の調整が実質的な任務。
- 企画運営委員会が主導してテーマを決めるのは困難だろうと思う。

◆ 実行委員会の役割と改善

- 実行委員会と企画運営委員会の仕事内容(役割分担)の違いが分からない。
- 実行委員会が主導してテーマを決める方法が望ましい。
- 実行委員会も図書館大会実施のための寄せ集めの組織なので、テーマの決め方は難しい。
- 実行委員会が主導して決められない場合は企画運営委員会がフォロー。

◆ 意思疎通と協議の改善

- 県と支部の意思疎通をスムーズにしていただけるとありがたい。
- 双方が相談して決めることが望ましい。
- 現在の企画運営委員会の開催頻度が少ないので、協議が難しい。

◆ テーマ決定の方法

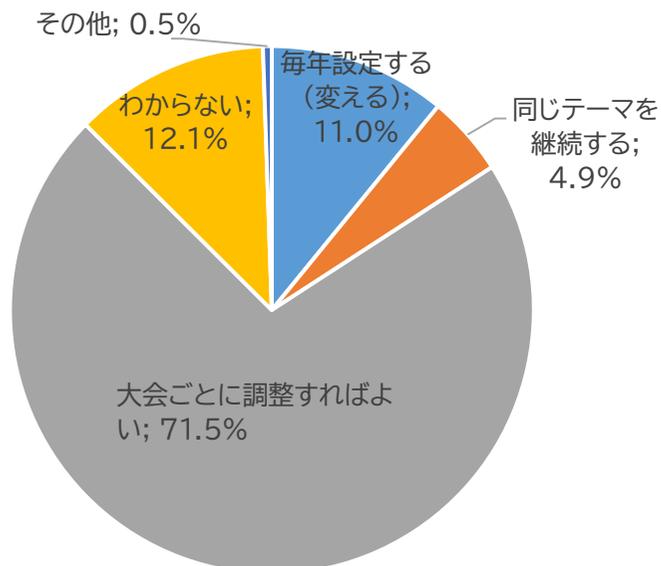
- 教育現場のことを知る人がテーマを決める方法でよい。
- 実務担当者も入れて企画運営委員会を構成し、テーマや内容を決める。
- 全県の状況や課題を見通し、ビジョンを含んだテーマを選べる立場で決める。
- 長野県の図書館を今後どうしていきたいのか、県の方針を示して欲しい。

◆ その他の提案

- 開催時に来年度のテーマのアンケートをとり参考にする。
- 各大会の特色を出すためにも、実行委員会で検討して決める。
- 北信越図書館大会と兼ねて実施する場合、全国SLAとの関係も考慮する。 4

大会テーマの設定について

大会テーマの設定について



項目	件数
毎年設定する(変える)	40
同じテーマを継続する	18
大会ごとに調整すればよい	261
わからない	44
その他	2
総計	365

◆ テーマ設定の方針

- 『地域と共に知り、共に創る』のスタイルに戻す形が良い。
- 事前にアンケートを募り設定していく。
- 結果として同じようなテーマになったとしても、毎年検討することが必要。
- 毎年変わるよりもある程度継続したテーマのほうが良い。
- 同じテーマは数年単位で継続し、PDCAサイクルを進める。

◆ テーマ設定の方法

- その時々課題や、大会実施地区の要望も併せて決める。
- 企画運営委員会で大きなテーマを設定し、実行委員会では開催地の意向を受けて副題などを考える。
- 開催地で扱いたいテーマが良い。
- 長野県の図書館に示したい方針により同じテーマを継続、“今”の新しいテーマを取り扱う。

◆ 継続と変更のバランス

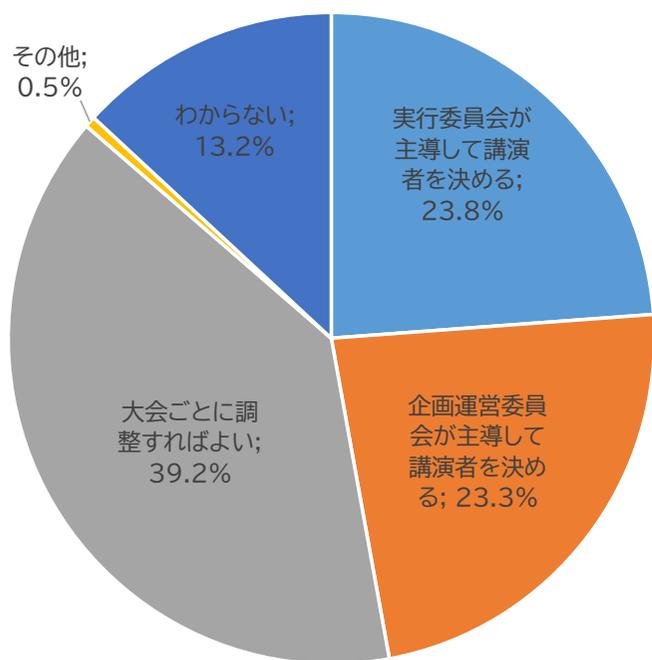
- 過去のテーマを一覧で知りたい。
- 内容によっては継続のものも出てくるので、その都度対応する。
- テーマ設定が大会運営上大きな仕事であり、一定期間継続した方が良い(必要に応じて変更)。
- 継続されていることを実行委員が認識できるように毎年確認が必要。

◆ その他の意見

- 実行委員会が主導して決められない場合は企画運営委員会がフォロー。
- 参加する側として、深くテーマを考えたことがないので、毎年設定せずとも良い。

基調講演_講演者の決め方について

基調講演_講演者の決め方について



項目	件数
実行委員会が主導して講演者を決める	87
企画運営委員会が主導して講演者を決める	85
大会ごとに調整すればよい	143
その他	2
わからない	48
総計	365

◆ 実行委員会と企画運営委員会の役割

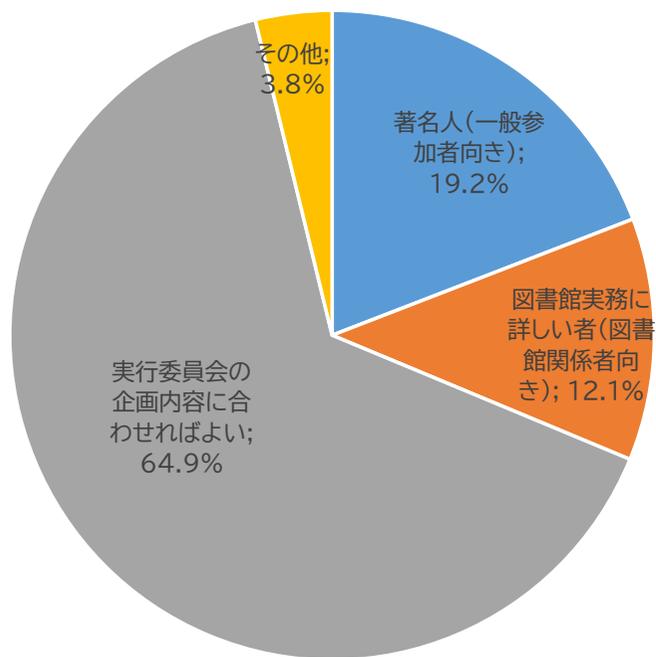
- 実行委員会が主導し、決められない場合は企画運営委員会がフォロー。
- 現在の企画運営委員会は実働部隊ではないため、テーマ決定は困難。双方が相談して決める必要がある。
- 実行委員会で決められない場合、企画運営委員会に頼る形になる。
- 企画運営委員会には実行委員会代表者の出席があり、意見を吸い上げることができる。
- 図書館に関わる職員が多い企画運営委員会が決定権を持つべき。

◆ 予算と講演者の選定

- 予算に合わせて講演者を選定。
- 企画運営委員会から基調講演者の推薦や紹介を受ける。
- 各自治体では高額で依頼できない著名人を招くのは難しい。
- テーマと基調講演は連動するため、主導が分かれな方が良い。
- 大会テーマに沿った講演者や本の世界に明るい方を招きたい。
- 他県図書館の従事者の講演を希望。利活用のヒントや学校図書館の立場について知りたい。

基調講演_講演者の種別について

基調講演_講演者の種別について



◆ 講演者の選定について

- 著名人が図書館関係者かは年毎に変更可能
- 企画運営委員会の企画内容に合わせる
- 図書館に関係ない人の内容も刺激になる
- 幅広いジャンルの方を検討
- その時々でふさわしい人を選ぶ
- 「講演を聞きたい」と思える人を選ぶ
- 本に関係する内容の講演が望ましい
- 具体的に決めすぎると選定が難しくなる
- 著名人と関係者向きの方を交互にする
- 図書館職員向けの内容だけでは視野が狭くなる
- 図書館や本に関心がある様々な参加者向きに考える
- 特に種別を決めなくても良い

◆ 一般参加者の考慮

- 一般人の参加も可能にするなら図書館実務関係者は控える
- 図書館に造詣の深い人が良い(一般向けでも図書館関係者でもOK)
- 一般の方々にも図書館大会を知ってもらうために著名人(作家等)が良い
- 児童文学作家の講演は一般の方も聴きたい
- 予算との兼ね合いで一般参加者からの聴講料を収入に当てるか検討

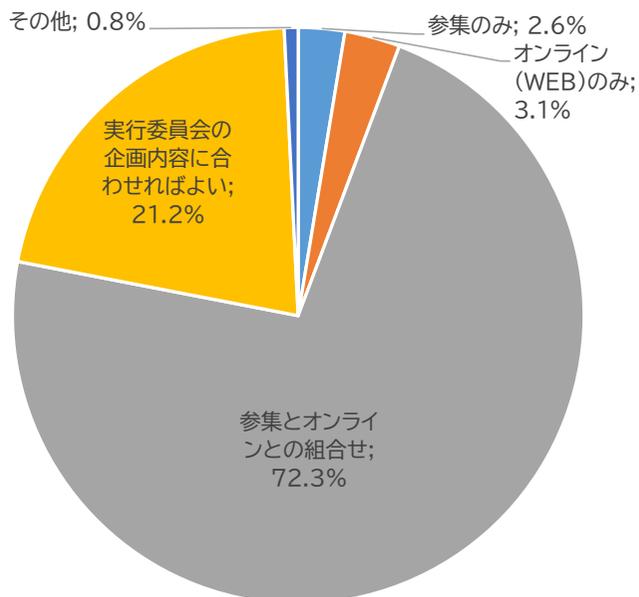
◆ 大会テーマとの関連性

- 大会のテーマに合わせる
- テーマに合った人を選ぶ
- 大会ごとに調整

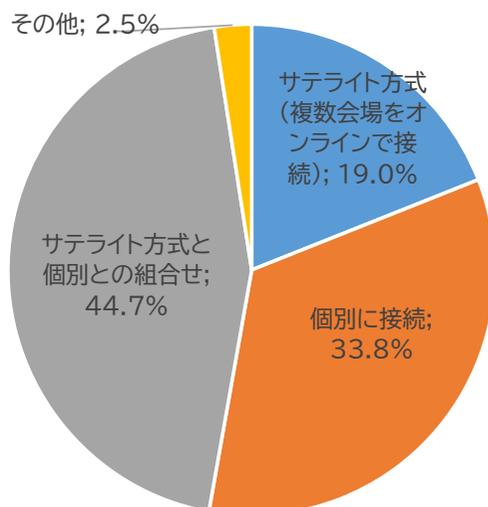
項目	件数
著名人(一般参加者向き)	70
図書館実務に詳しい者(図書館関係者向き)	44
実行委員会の企画内容に合わせればよい	237
その他	14
総計	365

基調講演_開催手法について (参集、オンライン)

基調講演の開催手法について(参集、オンライン)



(「オンライン」の場合)どの方式がよいか



◆ オンライン参加の要望

- 遠方からの参加者にとってオンラインは便利
- オンライン参加料を徴収するべき
- オンデマンド受講の要望(著作権の関係で不可の場合も)
- オンライン開催は好評で、選択肢として残すべき

◆ サテライト会場の提案

- 図書館をサテライト会場にすることでコスト削減
- サテライト会場と個別オンライン参加の組み合わせ
- サテライト会場の負担が大きい場合は個別配信のみ

◆ 運営側の負担軽減

- 実行委員に無理のない形式での開催を望む
- 配信サイトの利用で出張費用削減
- MP4録画で後日配信(講師許諾が条件)
- 開催地の会場選定は基調講演の参集人数が重要

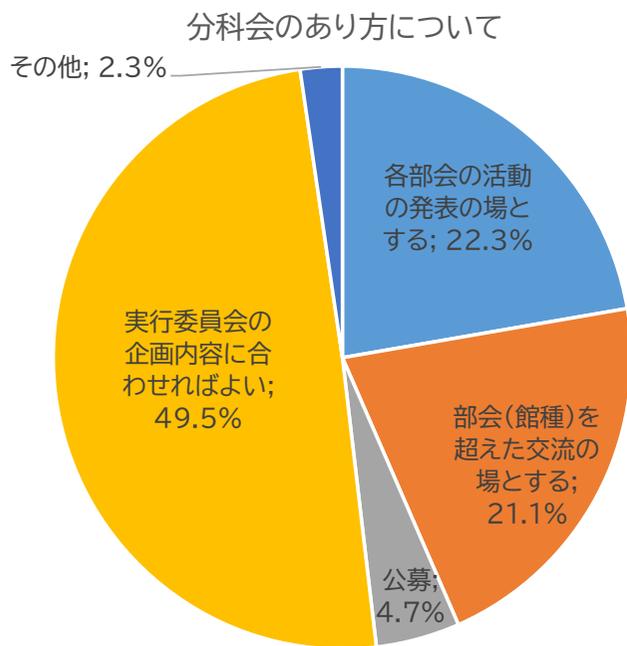
◆ 参加者の利便性

- 遠隔地の参加者が参加しやすくなる
- 開催地が遠方の場合、オンライン参加が有利
- 参集とオンラインの組み合わせが理想的

項目	件数	項目	件数
参集のみ	10	サテライト方式(複数会場をオンラインで接続)	54
オンライン(WEB)のみ	12	個別に接続	96
参集とオンラインとの組合せ	276	サテライト方式と個別との組合せ	127
実行委員会の企画内容に合わせればよい	81	その他	7
その他	3	総計	284
総計	382		

(複数回答可)

分科会_あり方について



項目	件数
各部会の活動の発表の場とする	95
部会(館種)を超えた交流の場とする	90
公募	20
実行委員会の企画内容に合わせればよい	211
その他	10
総計	426

(複数回答可)

◆ 分科会の設定と目的

- 図書館は学びの接続を支える機関であり、学校と公共の連携を図る唯一の機会。
- 学校と公共が共同で開催するメリットを生かすべき。
- 分科会の数や形式は開催地の事情に応じて柔軟に対応。

◆ 分科会の形式と内容

- 公募は難しいが、交流の場や公募での開催も検討。
- 高校部会は現状のままで良いが、運営に合わせた形が望ましい。
- 分科会は負担が少ない形で開催。
- 分科会の細分化は開催会場の選定が難しいため、数を減らすべき。

◆ 参加者の増加と交流

- 各部会の活動発表や部会を超えた交流の場、公募等の内容を盛り込むことで参加者を増やす。
- 高校・大学の活動を小中学校部会にも知ってもらう機会を提供。
- 分科会は情報共有や幅広い交流ができる形が望ましい。

◆ 分科会の運営と企画

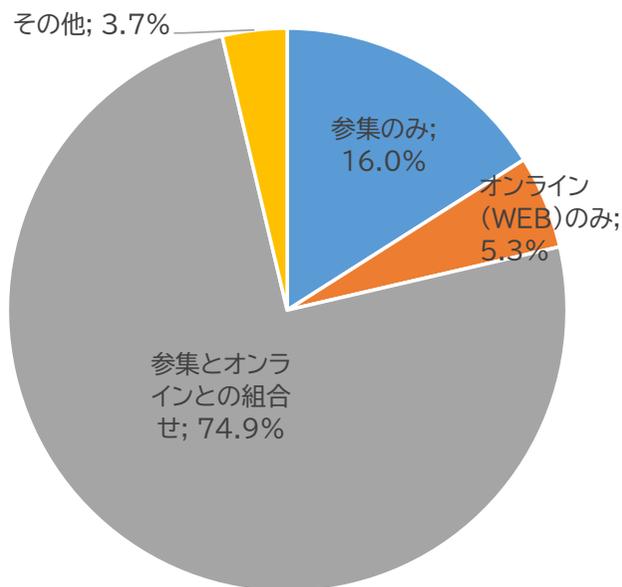
- 企画運営委員会の企画内容に合わせる。
- 課題が継続的に深められる内容にする。
- 分科会の内容決定には全県からのアンケートなどの機会を設ける。
- 事例発表やワークショップ形式の分科会も検討。

◆ 図書館大会の趣旨と目的

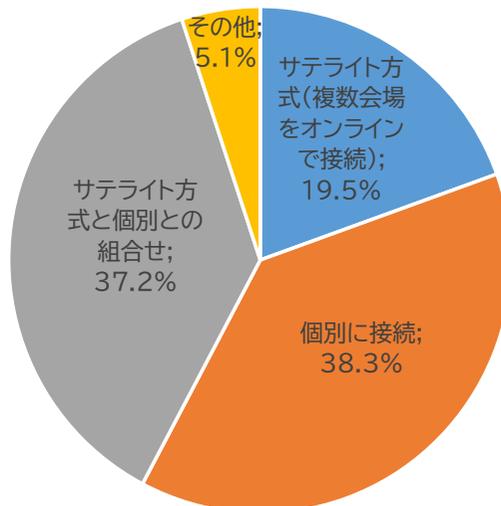
- 図書館大会の本来の趣旨や目的を明確にすることで、分科会のあり方も見えてくる。
- 各自治体の公共図書館と学校図書館の現状把握と課題改善を目的とする。 9

分科会_開催手法について (参集、オンライン)

分科会の開催手法について(参集、オンライン)



(「オンライン」の場合)どの方式がよいか



項目	件数	項目	件数
参集のみ	60	サテライト方式(複数会場をオンラインで接続)	54
オンライン(WEB)のみ	20	個別に接続	106
参集とオンラインとの組合せ	280	サテライト方式と個別との組合せ	103
その他	14	その他	14
総計	374	総計	277

(複数回答可)

◆ オンライン参加の課題

- 運営側の負担が大きい
- 参加者からオンライン参加や録画視聴の要望が多い
- 運営者の負担軽減が必要
- オンライン開催は機材や運営の体力が必要
- オンライン導入は準備と進行に労力が必要

◆ オンライン参加の利便性

- 現地参加が難しい場合、オンライン参加が便利
- 直接交流の良さもある
- 無理のない形式での開催を希望
- 遠方開催や交通費が出ない場合、オンライン参加ありがたい
- 視聴だけの参加希望者もいるため、オンラインも必要

◆ 分科会の形式に関する意見

- ワークショップ形式は参集が望ましい
- 実践報告はオンラインで問題ない
- 事例発表はオンライン、ワークショップは参集
- 顔を合わせての討議が重要

◆ 分科会ごとの対応

- 分科会ごとに形式を決めるべき(分科会に任せる、分科会ごとに調整、各分科会の希望を聞きながら調整)
- 配信サイトの利用(サテライト方式は出張費用がかかる)
- オンライン参加が可能な分科会はオンライン可とする
- 分科会の体力に合わせて選択

◆ その他の意見

- MP4で録画して後日配信(発表者許諾が条件)
- 大会ごとに調整
- 高校部会は現状のままで良い
- 高校部会は参集+オンライン(個別)が良い
- 令和6年度の分科会内容ならオンラインが良い

企画運営委員会と実行委員会との役割分担について（まとめ）

◆ 企画運営委員会の役割

- 企画運営委員会が大きな方向性を示し、実行委員会が主体的にテーマや内容を決めるべき。
- 企画運営委員会の機能が不明確で、実行委員会に丸投げする状況が見受けられる。
- 企画運営委員会が手綱を握るべきであり、組織・内容・開催時期の見直しが必要。

◆ 実行委員会の負担軽減

- 開催地の負担が大きくなるよう配慮が必要。
- 実行委員会のメンバーは図書館の専門知識がない人も多く、一部の職員に負担が集中しがち。
- 実行委員会の負担を軽減するため、企画運営委員会の協力が必要。

◆ 役割分担の明確化

- 企画運営委員会と実行委員会の役割分担を明確にする必要がある。
- 役割分担の見直しが必要で、特に図書館大会の開催地区の負担が大きい。
- 実行委員会として実働可能な支部とそうでない支部がある。

◆ 連携と体制づくり

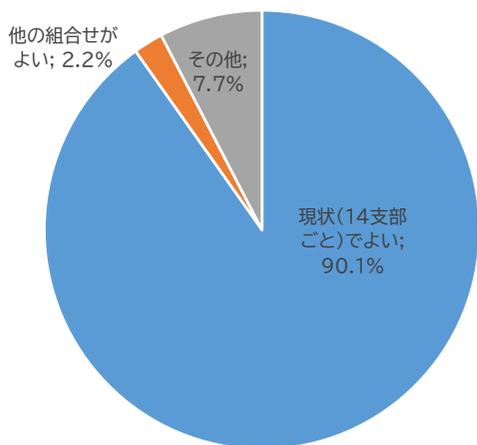
- 連携しやすい環境を整えることが重要。
- 企画運営委員会が早めに動き出し、各組織の主体性を発揮させる。
- 開催後の振り返りを行い、次回開催地への引継ぎを確実にすることが望ましい。

◆ その他の提案

- 企画運営委員会の名称を「運営委員会」に変更し、企画メンバーのみ開催地の実行委員会に参加する案。
- 企画運営委員会が大きな柱を決め、どの大会でも実行委員会が早期に動き出せる体制づくりが必要。
- 開催2年前にはやるべきことを明確にし、次々年度までの開催担当市が企画運営委員会に出席するようにする。

持続可能な大会運営_実行委員会の担当地区割

持続可能な大会運営_実行委員会の担当地区割



項目	件数
現状(14支部ごと)でよい	329
他の組合せがよい	8
その他	28
総計	365

- 何らかの形で集約する
- 県大会が実施できる支部は、限られるのではないか
- 北信越大会の実施は、県(企画運営委員会)である程度の方角を決めてから、支部(実行委員会)と協議していただくのがよいのではないか
- 14支部に拘らず、もう少し実働的な組み合わせであってもいいのではないか。
- 簡素化すべき
- もっと大きなブロックでの組織はどうか。広域単位など。
- 東信地区は支部が少なく(2支部)図書館大会を開催するスパンが他の支部より短い。もう少しバランスを考えて公平になるように希望。例えば4支部ある地区を2つに分ける、14支部を(地区関係なく)順番に回していく、など。
- 町村立図書館が開催の中心となるのはどうしても難しいので、市立図書館を核に組合せを区切ってみたらどうか。もちろん市立の規模にもよるとは思いますが、そこは周辺町村が協力する形で。
- 安曇野支部、といっても現実には安曇野市1館のみなので、できれば大北または松本など隣接地と合同が非常に望ましい。

◆ 実行委員会の役割と運営方法

- 実行委員会が主体的にテーマや内容を決めるべき。
- 実行委員会が主体的に取り組める範囲で集約する。
- 公共図書館が実務を負う場合、地区割りを公共図書館数・規模で均等にする必要はある。

◆ 開催方法の見直し

- 現状のままで進めるしかないが、いずれ見直しが必要。
- 小規模な市町村が担当する場合、規模に応じた大会にする。
- 遠方での開催や小規模校での開催は負担が大きい。
- 14支部にこだわらない方法で開催を検討。

◆ 負担の軽減

- 開催市町村の負担が大きい。
- 大きな郡市と小さな郡市が並列的に大会を担当するのは不可能。
- 県内4ブロックそれぞれが毎年大会を開くのは負担が大きい。
- 隔年開催や県大会のみに集約する案を検討。

◆ 地区割りと柔軟な対応

- 長野県は広いため現状が合理的。
- 児童数、学校数の減少に伴い、地区割りも柔軟に対応。
- 大会の中身についても柔軟に対応し、参加者のニーズに合わせる。
- 各支部の意向によっては統合も検討。

◆ 負担の分散

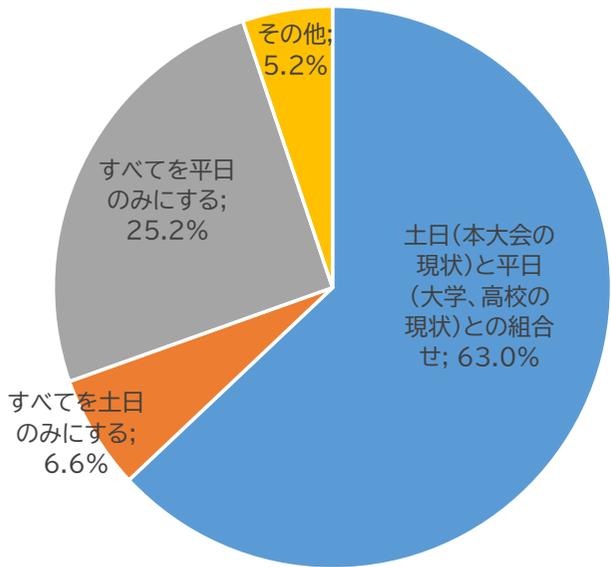
- 担当支部を複数にし、負担を分散。
- 運営側も参加側も無理がないようにする。
- 図書館大会と学校図書館研究大会の融合や回数削減を検討。

◆ その他の提案

- 県内2地区での開催も検討。
- 学校再編に伴う地区割りの見直し。
- 小規模地域は隣の地域と協力。
- 数年先までの希望を取ることで、PRとして実行委員会をやりたい年を選ぶようにする。

持続可能な大会運営_大会の開催曜日

持続可能な大会運営_大会の開催曜日



項目	件数
土日(本大会の現状)と平日(大学、高校の現状)との組合せ	230
すべてを土日のみにする	24
すべてを平日のみにする	92
その他	19
総計	365

◆ 開催日時に関する意見

- 各部会が主体的に日時を決定すべき。
- 大会の目的に合わせて日時を変えるべき。
- 大会ごとに調整するのが良い。
- 学校図書館職員は土日が参加しやすい。
- 公共図書館は土日関係なく参加可能。
- 土日開催は学校側の反発が強い。
- 土日は勤務日ではないため参加しにくい。
- 平日開催なら職務として出席しやすい。
- 公共図書館職員は平日が参加しやすい。
- 平日開催は学校司書にとって出張扱いにならない場合がある。
- 平日開催は一般参加者が参加しにくい。

◆ 開催形式に関する意見

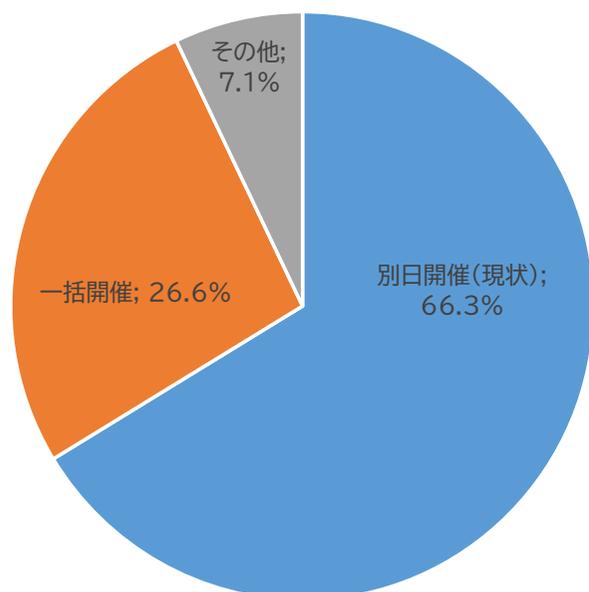
- オンライン開催や部分参加を検討すべき。
- 毎年同規模の大会開催は難しいため、隔年開催や半日開催を検討。

◆ その他の意見

- 他の大きな大会やイベントと重ならない日程が望ましい。
- 11月に多くの会が集中するため、重ならないように調整が必要。
- 休日が振り替えられるなら休日開催の方が参加者が増える。
- 大会参加者の学校側に重きを置くか、公共図書館に重きを置くかで変わる。
- 無理のない範囲で参加できる方法を検討すべき。

持続可能な大会運営_高校・大学大会（分科会）の一括開催

持続可能な大会運営_高校・大学大会(分科会)の一括開催



項目	件数
別日開催(現状)	242
一括開催	97
その他	26
総計	365

- ◆ **一括開催 vs 別日開催**
 - 一括開催のメリットが不明確。
 - 別日開催のメリット・デメリットが示されていないため、判断が難しい。
 - 以前は一括開催だったが、現在の形が定着しつつある。
- ◆ **高校・大学の視点**
 - 高校の大会が平日に開催されるのは持続可能な運営のため。
 - 高校としては大学の様子がわかるのは良いが、大学側の意見も考慮すべき。
 - 高校図書館協議会の活動を継続するために現在の形が望ましい。
- ◆ **参加のしやすさ**
 - 館種の主体機関の土日勤務の扱いに差があるため、現状の別日開催が望ましい。
 - 非正規職員が多く、平日でないと参加が難しい。
 - 別日開催により複数の分科会への参加が可能。
- ◆ **負担軽減**
 - 県高等学校図書館協議会事務局の負担を考えると現状が望ましい。
 - 一括開催により開催地や役員の負担が減る可能性。
 - 高校SLA研究会と兼ねる別日開催が負担軽減策として有効。
- ◆ **館種を超えた交流**
 - 館種を超えた交流のためには公共・小中・読書団体等の本来の開催日に合わせるべき。
 - 中学校は高校の活動報告を知りたいし、高校は中学校や大学の活動報告を知りたい。
 - 共通の課題を扱う分科会があれば館種を超えた交流が可能。
- ◆ **その他の意見**
 - 会場の確保等、各地区によって事情が異なるため現状の別日開催が望ましい。
 - 広い会場で一括開催できるならば、数年に一度くらいは一括開催も良い。
 - 講演のみオンラインで参加する方法も検討すべき。

図書館大会についてのご意見（自由記載：まとめ）

➤ 大会の開催方法について

◆ オンライン開催の推奨

- ・ 開催日数や予算を縮小し、オンライン形式を推奨。
- ・ オンライン併用で参加者増を見込むが、ネットワーク環境の整備が必要。

◆ 隔年開催の提案

- ・ 毎年開催ではなく隔年開催にして、内容のレベルを向上。
- ・ 北信越大会がない年のみ県大会を開催。

➤ 負担軽減策

◆ 実行委員会の負担軽減

- ・ 実行委員会の負担を軽減するため、隔年開催や分科会数の削減を検討。
- ・ 当番市や実行委員会の負担が大きいため、町村でも開催できる規模や内容を検討。

◆ 参加費用の補助

- ・ 司書教諭の参加費用や交通費の補助を希望。
- ・ 遠方開催地の場合、宿泊費用の予算が取れないためオンライン参加を希望。

➤ 大会運営の改善

◆ 資料のデジタル化

- ・ パンフレット等の資料をPDF化し、メールで配信。
- ・ 広告料収入の問題が解決できれば、資料のメール配信は経費削減の有効策。

◆ ビデオ録画と後日配信

- ・ 講師の許諾を得て、MP4対応のビデオで録画し、後日YouTube限定配信。
- ・ 現地参加より多少格安にすることで参加者増加を見込む。

➤ その他の提案

◆ サテライト会場の設置

- ・ 支部ごとのサテライト会場を設け、参加しやすい環境を整備。
- ・ サテライト会場を増やして欲しいという要望。

◆ 大会の意義と運営の見直し

- ・ 大会そのものの是非を考える機会とする。
- ・ 公共図書館と学校図書館での運営の割り振りを明確にする。

アンケート結果から見えてきた図書館大会の改善ポイント

- 1. 企画運営委員会の役割と改善:**
 - ・ 企画運営委員会の役割を明確にし、テーマ決定の主導権を持たせる。
 - ・ 委員会の構成員に実務担当者を含め、テーマや内容の決定に関与させる。
 - ・ 開催地からの参加者を増やし、協議の場を設ける。
- 2. 実行委員会の役割と改善:**
 - ・ 実行委員会と企画運営委員会の役割分担を明確にする。
 - ・ 実行委員会が主導してテーマを決定する方法を検討。
 - ・ 実行委員会の負担を軽減するため、企画運営委員会のサポートを強化。
- 3. 意思疎通と協議の改善:**
 - ・ 県と支部の意思疎通をスムーズにするための仕組みを導入。
 - ・ 企画運営委員会の開催頻度を増やし、協議の機会を増やす。
- 4. テーマ決定の方法:**
 - ・ 教育現場の実務担当者を含めた委員会でテーマを決定。
 - ・ 全県の状況や課題を見通し、ビジョンを含んだテーマを選定。
 - ・ 来年度のテーマについてアンケートを実施し、参考にする。
- 5. 基調講演の講演者選定:**
 - ・ 予算に合わせた講演者の選定。
 - ・ 図書館に関わる職員が多い企画運営委員会が決定権を持つ。
 - ・ 他県図書館の従事者や児童文学作家など、多様な講演者を検討。
- 6. 開催手法の改善:**
 - ・ オンライン参加の選択肢を増やし、遠方からの参加者の利便性を向上。
 - ・ サテライト会場の設置を検討し、コスト削減と参加者の利便性を両立。
 - ・ MP4録画で後日配信を行い、参加者の増加を図る。
- 7. 分科会のあり方:**
 - ・ 分科会の数や形式を柔軟に対応し、開催地の事情に合わせる。
 - ・ 分科会の内容決定に全県からのアンケートを活用。
 - ・ ワークショップ形式や事例発表など、多様な形式を検討。
- 8. 大会運営の改善:**
 - ・ 実行委員会の負担を軽減するため、隔年開催や分科会数の削減を検討。
 - ・ 資料のデジタル化を進め、経費削減を図る。
 - ・ 大会の意義と運営の見直しを行い、持続可能な運営を目指す。

E.O.F